

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念を共有し、意識できるように職員ステーション内に掲示している。 | 法人の理念については事務所内の目に付き易い所に掲示し共有に努めている。職員会議の席上、理念について話し合い、日々の業務を振り返り利用者を第一に考えた支援に向かって取り組んでいる。家族に対しては理念を活かした取り組みとして「自分で出来ることはやっていただき当ホームでの生活が楽しく、長く続けられるようお手伝いします」と伝え、実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や買い物などに行った際に挨拶などをしたり、行事に参加して交流の機会を設けていた。新型コロナウイルスの感染拡大以降は、買い物や行事参加を中止している。 | 自治会費を納め、区の一員として活動している。毎年夏行われる地域の「祇園祭」には職員が準備のお手伝いに出て、当日は利用者をお連れして屋台等を楽しみ、地域の皆様との交流のひとつを楽しんでいる。また、ホーム隣の神社で地域の皆様と一緒にラジオ体操を行うなど、良い関係が築かれている。開設以来、様々な地域行事や小学校・中学校との交流活動、各種ボランティアの受け入れ等を積極的に推進して来たが、昨年春以降の新型コロナウイルスの影響を受け全て自粛状態に追い込まれ残念な状況である。収束後には再開し地域の一員として積極的に活動する予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 今年度は実施していない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を年4回、運営連絡協議会を年2回開催しており、参加者からの意見を参考にして、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。 | 住民代表、区長、広域連合職員、町健康福祉課職員、母体ともいうべき複合施設の第三者委員、町介護相談員、ホーム関係者の出席で2か月に1回開催している。現在は新型コロナウイルスの影響を受け書面での開催となり、利用状況、職員状況、事故報告、行事計画、行事報告等を書面にし参加メンバーにお知らせしご意見を頂くよう進めている。そのような中、昨年12月に母体の複合施設として運営連絡協議会を開催し、協力医療機関、ソーシャルワーカーなどの出席も頂き、「病院との連携」や「通所事業所としての新しい取り組み」等について話し合ったという。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 定期的に役場等に訪問し、担当者との情報交換を行うことで地域のニーズの把握に努めている。 | 施設長とハウスマネージャーがそれぞれ月1回は町健康福祉課を訪問し、意見交換や様々な事柄について連携を図っている。介護認定更新調査は調査員がホームに訪し職員が立ち会い話をしており数名の家族が立ち会っている。介護相談員の来訪も現在は中止の状況が続いているが収束後には再開予定である。 | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月ごとに身体拘束に関する委員会を開催している。また必須の研修として全職員に必要な研修を受けさせている。 | 法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため玄関内にチャイムを設置し音で知らせるよう工夫がされている。外出傾向の強い方もいるが、気分を変えるよう話題を変えたり暖かい日には近くの神社まで散歩をして対応している。職員は1時間に1回所在確認を行い安全の確保に努めている。3か月に1回身体拘束適正化委員会を開き、拘束のないケアに対する意識を高め支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束と同様。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部からの研修案内について職員へ情報提供している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に契約・解約等の内容を説明し、ご家族の意向を伺い、ご理解いただけるように努めている。文書にて提示している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様のつづやきとして、小さな一言も汲み取り、希望や訴えなどの対応策を会議等で検討し、実施している。 | ほとんどの利用者は自分の思いを伝えられる状況であるが、きめ細かな問い掛けを行い要望を受け止めそれに沿えるよう心掛けている。家族の面会は新型コロナ禍という状況の中、事前に予約を頂き短時間の窓越し面会とウェブ面会を行っており、近隣の家族は必要な物をお持ちの際に利用者との面会をしている。毎年2回行っている家族参加の「バーベキュー大会」も今年度は中止になり残念であるが、収束後にはまた実施の意向である。また、ホームでの生活の様子は毎月発行されるお便り「ほのぼの便り」に載せ、家族に郵送でお知らせしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例会議や申し送り時等に職員からの意見や提案を募る機会を設け、検討している。又、チャレンジシートや面接時に意見を言う場を設けている。 | 月1回、月末に職員会議を行っている。利用者一人ひとりの状況、ハウスマネージャー(管理者)会議の報告、ヒヤリハットの分析、「料理への参加」などの利用者によっていただけることの確認、パソコン上の申し送り事項の確認等を行いサービスの向上に繋げている。人事考課制度があり年1回具体的な個人目標を設定し、ハウスマネージャーと目標について具体的な話し合いを行い、チャレンジシートを用い自己評価を行い、更に上長が評価を行っている。また、年1回、ストレスチェックが行われ職員の心身の管理にも努めている。 | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 目標を持って、働けるように各ツールを使用したり、個々に面接を行い、各職員の目標を共有しあい、意欲向上に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経験や習熟度に合わせた学びの機会を持てるよう法人内外の研修の情報収集をし、研修参加の促進を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人全体の職員を対象とした研修の実施により、交流の場を設けている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス導入、不安な事や要望があれば確認を行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 上記同様。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現在のサービス状況を確認しながら、他のサービス機関の情報も必要に応じて提供している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に家事や掃除を行い、食卓にて同じ料理を味わうなどして会話の機会を多く持てるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃から情報共有に努めている。現在は新型コロナウイルス感染症の影響により面会制限が行われているが、Skypeを利用したWeb面会や飛沫飛散防止シートを利用した対面面会を実施している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 近隣店舗への買い物や地域行事への参加を行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により外出を控えている。感染対策を行った上で、近隣への散歩は継続している。 | 家族の了解を頂いている友人、知人の来訪が数名あるが、現在は新型コロナ禍の状況下でもあり自粛をいただいている。ホームの電話を使い家族と連絡を取り合っている方が数名いる。かかりつけ医での受診の際、家族に付き添われ馴染みの美容院に行かれる利用者がいる。 | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている | 利用者様同士がお互いに声を掛け合い、助 け合える環境を整えている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者様が退居後も必要に応じて相談援 助や面会を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている | 個々の思いや希望をつぶやきとして汲み取 れるよう努力し、ご家族に生活歴等を確認 し、利用者様の生活の質の向上に努めてい る。 | 90歳以上の利用者が三分の二強と高齢化が進んで いるが、元気な利用者が多くおり、自分の意思で洋 服選びや好きな飲み物等を選んでる。また、日々 やりたいことは自由にやっていたくよう取り組んで おり、料理のお手伝いをいただく際に職員がサポート し包丁を使って調理されている方もいる。日々、気づ いた情報はパソコンの伝言板に記録として残し、職員 間で情報を共有し支援に役立っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている | 入居時に作成しているフェイスシートを活用 しながら、これまでの生活スタイルを大切に しながらケアにあたっていくよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている | 1人ひとりの過ごし方の把握を行い、ケアプ ランや伝言板にて情報共有を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している | ご本人やご家族の希望を取り入れた介護計画を 作成している。利用者様の状態変化に応じて計 画書の見直しを行っている。 | 職員は1~2名の利用者を担当し居室管理、家族との 窓口、ケアプランの作成などを担当している。カンファ レンスの前に担当者、ハウスマネージャーによる事 前のモニタリングを行い、家族からお聞きした希望を 加味しながら職員会議で話し合いプラン作成を行っ ている。入居時は1か月間様子を見て暫定のプランを 組み、その後は基本的に6か月に1回の見直しを行 い、状態に変化が見られた時には随時見直しを行 っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている | パソコン入力での介護記録(ポイントケア) にて、情報共有を図っている。毎日、ポイン トケアにて介護計画書の実施の有無につ いて評価をしている。 | | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 同法人施設が近くにあるため、交流を図ったり行事に参加していたが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により中止している。利用者様の状態に合わせたケアが提供できるよう、他事業所と連携している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナウイルス感染症の蔓延以前は地域社会の一員として、地区行事に参加して地域との交流を図り、充実した生活が送れるよう支援していた。現在は散歩時に挨拶する程度となっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診が必要な際は、ご家族に連絡し希望の病院をお聞きして対応している。 | 入居時に医療機関について確認をしている。現在は入居前からのかかりつけ医利用の方が大半で家族が受診に付き添い、受診時には食事や買い物もされている。現在、新型コロナウイルス禍の状況下で3か月に1回の受診となっている。他の若干名の方は月1回の往診で対応している。また、毎週火曜日には24時間対応の訪問看護師の来訪があり健康管理に取り組んでいる。歯科については必要に応じ家族がそれぞれのかかりつけ医にお連れしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の定期訪問のほか、変化があった際はその都度報告し、必要に応じて指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には、病院関係者との連絡をまめに取り合い、ご本人の状態把握と今後の方針・予定等を聞き、必要に応じて動けるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者様の状態やADLに変化が見られた際には、ご家族と今後の方針を話し合い、当事業所で出来る範囲のことを説明している。また、主治医等にも相談を持ちかけ、多方面から支援できるように取り組んでいる。 | 重度化に対する指針があり、利用契約時に説明をしている。食事や入浴等の対応が難しい状況に到った時には家族、主治医、ホームで話し合いの場を持ち、ホームとして出来る精一杯の支援に取り組み、医療機関への移動や法人内の特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署員による救急救命法を受講する他、職員同士で連携して対応できるよう話し合いを行っている。 | | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練を実施している。災害時は地域との協力体制を整えている。 | 今年度は新型コロナの影響もあり、年2回、内部での防災訓練を行った。火災を想定し、利用者がどの位の時間で玄関先まで避難出来るか全員参加で実施し時間を確認し、合わせて非常持ち出し袋の中身も確認している。また、不審者の侵入に備え緊張感をもって「さす又」の使用訓練などを行い、防災への意識を高めている。更に、携帯電話を用い職員緊急連絡網の確認も行っている。備蓄は「水」「レトルト食品」などが3日分準備されている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 同法人内の事業所間で、情報を共有しながら声かけや対応を検討、実施をしている。 | 言葉遣いには特に気配りをし、馴れ合いにならないよう意識をし、丁寧な言葉遣いに心掛けている。トイレ介助等、何かあった時には他の利用者にわからないよう介助するように徹底している。声かけは苗字に「さん」付けでお呼びし、入室時にはノックと「失礼します」という声掛けを忘れないようにしている。年2回人権擁護の研修会を行いプライバシー確保に対する意識を高め取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人からの意見等は職員で情報共有を行い、希望に添えるように職員・ご家族と協力している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりの過ごし方を把握し、その方の過ごし方に沿った支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の好みなどをお聞きし、着たい服などを選んでいただくような支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る内容を把握し、職員と一緒に食事づくり等に参加していただいている。 | 一部介助の方が若干名いるが、他の方は自力で食事が出来る状況である。献立は2週間分を利用者の希望も聞き、法人の管理栄養士のアドバイスも頂き職員が立てている。調理の中心は利用者であるとの思いから職員はサポートに当たり、下準備から、味付け、盛り付け、後片付けまで、キッチンに利用者が立ち活躍している。正月には「おせち料理」、ひな祭りには「ちらし寿司」、クリスマスには「唐揚げ」等で季節の料理を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取量を記録で確認し、1人ひとりに合った量や水分摂取の促しなど行っている。 | | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の方は毎晩義歯洗浄を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定期的にあセスメントを行い、それぞれに合った排泄パターンを調べ、自立支援を行っている。 | ほとんどの利用者が布パンツ使用で自立されており、自分の意思でトイレに行かれている。職員は利用者の意思を尊重すると共に食後の声掛けを行い排泄後の確認を行うようにしている。一人ひとりの排泄状況はパソコンで記録に残し情報の共有化を図り、排泄支援に繋げている。また、排便促進を図るため1日の水分摂取目標を1,500ccに置き、お茶、牛乳、ジュース等の摂取を勧めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便通により食材を使用したり、アドバイスを取り入れたりしている。散歩や体操を行い、運動も取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 午後がメインになるが、ご本人と相談し、入りたいタイミングで入浴していただいている。 | 見守りが必要であるが自立されている方が大半で、一部介助が若干名という状況である。週5日午後の時間帯に入浴を行っている。利用者の希望に合わせて週5回入浴される方が半数強、週3回の方が三分の一となっている。弱い入浴拒否の方がいるが誘い方を変え、少なくとも週2回は入浴していただいている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室で休んでいただけるよう環境を整えている。職員からも声かけもを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 毎回受診後に薬の変更等がないかご家族に確認をし、その後全職員に情報共有できるように伝言板を使用し、申し送りをしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご家族やご本人から好み等を聞き、情報共有を行い、1人ひとりに合った楽しみごとなどを提供できるようにしている。 | | |

グループホームグレイスフル下諏訪

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスの影響により、近隣への散歩以外の外出を控えている。ご家族同伴による外出の制限はしていない。 | 外出時、自力歩行の方が三分二強、手引き歩行の方が三分の一弱という状況である。天気の良い日にはホームの周りや隣の神社まで花を見ながら散歩を楽しみ、境内で体操を行い体を動かしている。また、ホーム内の廊下を一日5周～10周歩き体力の維持にも努めている。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け外出レクリエーションが殆ど出来ていない状況が続いているが、収束後には春のお花見から秋の紅葉までドライブを兼ね出掛ける予定でいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在金銭を持っている方はいない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話などは希望があれば対応を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | カレンダー、時計を設置し日付や時間がわかるようにしている。季節の花などを飾り、季節感を味わっていただけるようにしている。 | 週1回掃除の日があり利用者と職員が共にホールを中心に掃除を行い清潔感漂う施設内となっている。壁には季節行事に合わせた飾り付けがされており、訪問調査時は「お雛様」の装飾が施され季節感が感じられた。開設から21年を迎え、利用者が積極的に調理に参加していただけるようにという思いからキッチン中心にリフォームをし活躍の場を広げている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファの設置をしたり、気の合う方と席を配置したりと工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族やご本人と相談し、過ごしやすい環境づくりを皆で考え工夫している。 | 大きな収納戸棚が完備された居室は整理整頓が行き届き清潔さが感じられた。持ち込みは自由で、家族と相談の上使い慣れた家具、衣装ケース、テレビ、仏壇等をレイアウトし、出窓には観葉植物等も置かれ、自由な生活を送っていることが窺えた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの出来る内容を計画書に作成し、実行している。 | | |